

芸術科書道 I 学習指導案「行書の鑑賞」

授業者所属・職・名前 愛知県立春日井西高等学校・教諭・内田貴士

(日 時 令和5年1月24日(火) 6時限)

(対 象 第2学年4組 30名)

(科 目 書道 I)

単元設定の理由

芸術科書道 I の目標は、基礎的な技術習得、書の美の感受、心豊かな生活や社会の創造にある。書美に幅広く関わる生徒の資質・能力を育成するために、表現領域での学びを生かすことのできる鑑賞教材に定期的に取り組み、生徒の主体的な学習態度を育みたい。

学習指導要領との関連

鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、線質等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解し、作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。

育てたい資質・能力

“「なぜ」と問うことで自分と向き合い、追究し続ける主体的な学びの実現”を基軸とし、芸術科の学びを通して、生涯にわたって学び続け、美しさや豊かさを感じることでできる資質能力を育てたい。

1 単元名 「行書の鑑賞」

2 本単元に関連する内容のまとめ 「B鑑賞」(1) 鑑賞 及び〔共通事項〕(1)

3 書道 I の目標と評価の観点及びその趣旨

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のように育成することを目指す。

	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
目 標	書の表現の方法や形式, 多様性などについて幅広く理解するとともに, 書写能力の向上を図り, 書の伝統に基づき, 効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感じ, 意図に基づいて構想し表現を工夫したり, 作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え, 書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の幅広い活動に取り組み, 生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに, 感性を高め, 書の伝統と文化に親しみ, 書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

(高等学校学習指要領 P. 157)

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	<ul style="list-style-type: none"> ・書の表現の方法や形式, 書表現の多様性について幅広く理解している。 ・書写能力を向上させるとともに, 書の伝統に基づき, 作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け, 表している。 	書のよさや美しさを感じ, 意図に基づいて構想し表現を工夫したり, 作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え, 書の美を味わい捉えたりしている。	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

4 単元構成

「行書の鑑賞」 3時間(授業外での取り組みを含む) 「B鑑賞」(1) 鑑賞 及び〔共通事項〕

第1次：行書の概要説明および鑑賞文1回目の作成

(この期間に、行書臨書2種、創作活動を実施)

第2次：鑑賞作品ワークシートの取り組みおよび鑑賞文2回目の作成【本時】

第3次：Microsoft teams への鑑賞文投稿および鑑賞文3回目の作成

5 単元の目標

鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。

6 単元の評価規準

鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、主体的に幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。主体的に学習に取り組む態度

7 本単元に関連する内容のまとまりの評価規準

「B鑑賞」(1) 鑑賞 及び〔共通事項〕(1)

知識 (技能)	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>[共通事項]</p> <ul style="list-style-type: none">・用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。・書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解している。 <p>・線質，字形，構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。</p> <p>・日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解している。</p> <p>・漢字の書体の変遷，仮名の成立等について理解している。</p> <p>・書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解している。</p>	<ul style="list-style-type: none">・作品の価値とその根拠について考え，書のよさや美しさを味わって捉えている。・生活や社会における書の効用について考え，書のよさや美しさを味わって捉えている。	主体的に幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

8 本時における学習過程と評価

単元「行書の鑑賞」第2次（50分）の学習計画

	活動の流れ	時間	学習活動	指導上の留意点	評価の方法		
					知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組む態度
第2次	導入	5分	<ul style="list-style-type: none"> 返却された「書道鑑賞」プリントの内容を確認する。 提示された鑑賞文の例を読み、作品の見方について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 前回実施している楷書作品の鑑賞との相違点について説明する。 創作活動を通じて得たことを確認する。 自身が感じたことの理由を考えるよう促す。 			◎観察
	展開1	20分	<u>作品鑑賞ワークシート</u> <ul style="list-style-type: none"> ワーク1『丹愚』に取り組む。 授業者の鑑賞説明を聞く。 ワーク1『崩壊』に取り組む。 ワーク2に取り組む。 スマートフォンを起動し、teamsの「鑑賞の言葉を広げよう」を見る。 	<ul style="list-style-type: none"> 提示した画像を見せながら、授業者自身の鑑賞視点について説明する。その際に画像を拡大して、作品の全体や部分に注目させる。 「風趣」について意識させ、芸術の言語化について説明する。 			◎観察
	展開2	15分	<u>作品鑑賞ワークシート</u> <ul style="list-style-type: none"> ワーク3に取り組む。 ワーク3の点線内をスマートフォンで撮影し、teamsに投稿する。 teamsに投稿された他者の分析を見て、自身の鑑賞と似ているものにリアクションをする。 	<ul style="list-style-type: none"> teamsの「鑑賞の言葉を広げよう」と、作品画像を見るように促す。 他者の投稿を見て、自身の感性の特性を認識させたり、一般性を感じさせたりする。 			◎ワークシート ◎観察
	まとめ	10分	<u>作品鑑賞ワークシート</u> <ul style="list-style-type: none"> ワーク4として、「書道鑑賞」プリントの鑑賞文2回目を書く。 スマートフォンの電源を切る。 	<ul style="list-style-type: none"> 分析の観点を絞り、自身の感じたことを的確に文章化するように声掛けをする。 「書道鑑賞」プリントは次回の授業で提出させる。 			●ワークシート

9 授業で使用する資料・関連データ・参考資料・参考文献等

教科書・作品鑑賞ワークシート：「書Ⅰ」（教育図書）

作品図版『老興昂』：「墨 ニュークラシック・シリーズ 青山杉雨」（芸術新聞社）

鑑賞の言葉を広げよう：「書道Ⅰ」（東京書籍）